

報道関係者各位

株式会社 共立総合研究所

「2014年度 新入社員の意識調査(海外勤務)」

株式会社 共立総合研究所（岐阜県大垣市郭町2-25 取締役社長 森秀嗣）は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。

《要約》

経済のグローバル化によって、最近では、多くの企業が海外へ進出し、勤務地が国内とは限らなくなってきている。また、国内でも外国人とともに働くことが増えてきた。そこで、今回の新入社員の意識調査では、新入社員の海外旅行や留学の経験、海外勤務についての考えなどについてアンケートを実施した。

■ 海外渡航の経験

男性は37.4%が有り、女性は50.3%が有り

女性の方が海外旅行や留学には積極的

■ 海外旅行の経験

男性延べ327人が経験有り、女性延べ436人が経験有り

行先は、1位欧米、2位韓国・台湾。特に韓国・台湾は女性に人気

■ 海外留学の経験

男性延べ41人が経験有り、女性延べ51人が経験有り

行先は、1位欧米、2位中国。中国が韓国・台湾や東南アジアよりも人気

■ 海外勤務についての意識

海外勤務について国・地域別に尋ねたところ、男女とも「働きたい派」が欧米では約4割、一方中国では約1割

■ 海外で働きたい理由

男女ともすべての国・地域で1位「日本ではできない経験を積みたい」

■ 海外で働きたくない理由

男女ともすべての国・地域で「生活に不安」と「語学に不安」があるため

■ 外国人との勤務

外国人の社長・上司のもとで働くことには抵抗感があるものの、外国人と同じ立場で働くことには抵抗感は少ない

資料配布：名古屋金融記者クラブ 大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部 いちき 市来 圭 TEL 0584-74-2615】

調査概要

当社では、大垣共立銀行がお取引先企業の新入社員向けに開催している研修会の参加者を対象として「新入社員の意識調査」を実施している。今回の新入社員の意識調査では、新入社員の海外旅行や留学の経験、海外勤務についての考えなどについてアンケートを実施した。経済のグローバル化によって、最近では、多くの企業が海外へ進出し、勤務地が国内とは限らなくなってきた。また、国内でも外国人とともに働くことが増えてきた。そこで、グローバル化する雇用環境への新入社員の経験や意識について調査した。

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業 295 社の新入社員
- (2) 調査期間：2014 年 3 月 17 日～4 月 8 日
- (3) 調査方法：大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,190 人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数：1,157 人（有効回答率 97.2%）
- (5) 回答者属性：

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,157人	612人	545人
平均年齢		21.4歳	21.6歳	21.3歳
最終学歴	高校卒業	34.5%	34.4%	34.6%
	専門学校卒業	9.7%	9.8%	9.6%
	短期大学卒業	4.8%	1.5%	8.5%
	4年制大学卒業	47.3%	49.0%	45.4%
	その他	3.7%	5.2%	2.0%
居住地	岐阜県	46.2%	47.0%	45.2%
	愛知県	42.7%	41.8%	43.7%
	三重県	3.0%	3.0%	3.1%
	滋賀県	2.0%	1.5%	2.6%
	その他	6.1%	6.7%	5.4%
業種	建築業	7.4%	9.5%	5.0%
	製造業	37.0%	44.4%	28.7%
	卸売業、小売業	17.1%	13.7%	21.0%
	医療・福祉	9.4%	5.1%	14.3%
	サービス業	11.4%	9.1%	14.0%
	その他	17.7%	18.2%	17.0%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある。

「海外勤務に関する意識について」

(1) 海外渡航の経験

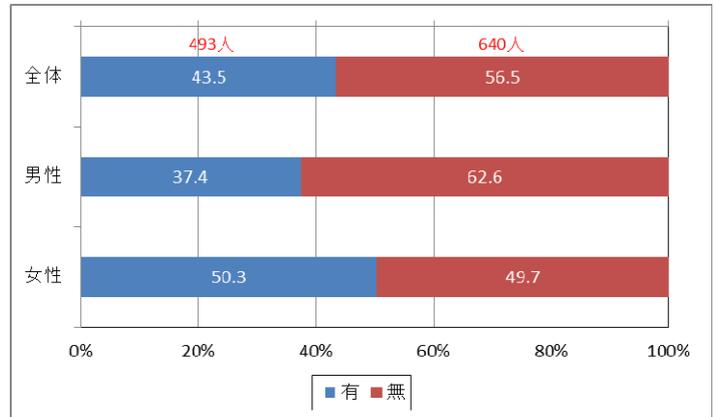
～男性よりも女性の方が海外旅行や留学には積極的～

「あなたは海外に行ったことがありますか」と尋ねたところ、海外に旅行や留学で行ったことがあると回答した人は 493 人 (43.5%)、無いと回答した人は 640 人 (56.5%) だった (図表 1)。

男女別にみると、男性では海外に行ったことのある人の割合は 37.4%にとどまったが、女性は 50.3%とほぼ半数にのぼった。

1980 年代後半から海外旅行や留学が一般的になってきており、学生時代から海外へ行ったことのある人が増えており、特に女性にその傾向が強いことが明らかとなった。

図表 1：海外渡航の経験有無



(2) 海外旅行の経験

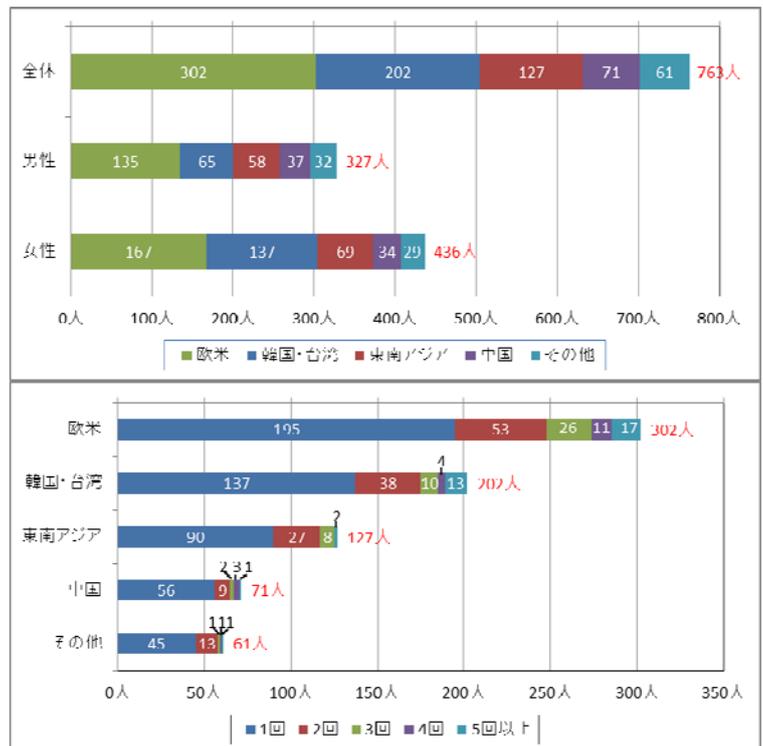
～1 位欧米、2 位韓国・台湾。特に韓国・台湾は女性に人気～

海外へ行ったことのある人のうち、旅行で行ったことのある人は延べ (以下、同じ) 763 人で、行き先の 1 位は欧米で 302 人だった。次いで韓国・台湾が 202 人、東南アジア 127 人、中国 71 人だった (図表 2)。その他の行き先では、オーストラリアやニュージーランドなどが多かった。

男女別でみると、海外旅行へ行ったことのある男性は 327 人、女性は 436 人だった。男女とも行き先は 1 位欧米、2 位韓国・台湾、3 位東南アジアだった。特に女性では、韓国・台湾へ旅行したことのある人が 137 人と、男性で同国・地域へ旅行したことのある人 65 人と比べ多かった。

欧米や韓国・台湾への旅行には複数回行った人も多く、2 回行った人が欧米と韓国・台湾でそれぞれ 53 人と 38 人、5 回以上の人も同 17 人と 13 人いた。

図表 2：海外旅行の行き先と回数



(3) 海外留学の経験

～1位欧米、2位中国。中国が韓国・台湾や東南アジアよりも人気～

海外に行ったことのある人のうち、留学したことのある人は延べ（以下、同じ）92人で、うち男性は41人、女性は51人だった（図表3）。行き先は1位が欧米で43人だった。次に中国が11人、東南アジアは8人、韓国・台湾は5人だった。そ

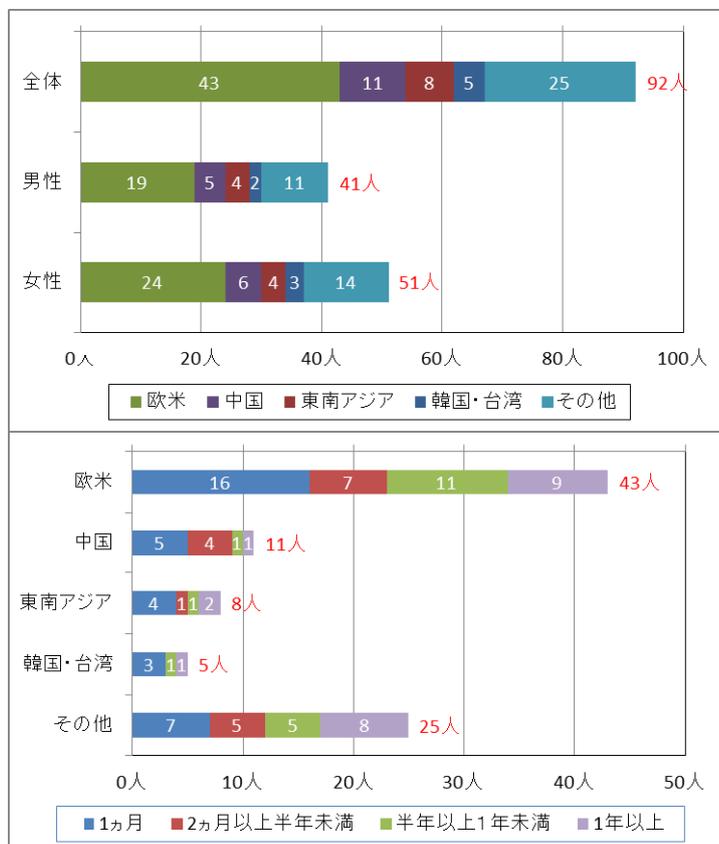
他の留学先では、オーストラリアやニュージーランドが18人と欧米について多かった。英語学習が目的の留学が多いためと思われる。

旅行としても留学としても欧米が行先としては1位だったが、2位以下では、旅行の行先とは逆転し、留学先は中国が韓国・台湾や東南アジアよりも多かった。

留学の期間は欧米への留学では1ヵ月が16人、2ヵ月以上半年未満が7人、半年以上1年未満が11人、1年以上が9人だった。中国への留学では1ヵ月が5人、2ヵ月以上半年未満が4人、半年以上1年未満が1人、1年以上が1人だった。

欧米以外の留学では半年未満の短期留学がほとんどであり、主に異文化体験を目的としていると考えられる。

図表3：海外留学の行先と期間



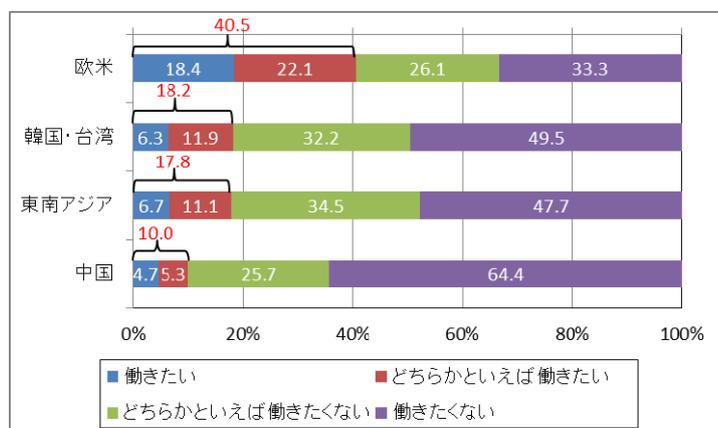
(4) 海外勤務についての意識

～男女とも「働きたい派」が欧米では約4割、一方中国では約1割～

国・地域別に「あなたは海外で働きたいですか（1つだけ選択）」と尋ねたところ、「働きたい」もしくは「どちらかといえば働きたい」と回答した人の割合は欧米が1位で40.5%だった。次いで、韓国・台湾が18.2%、東南アジア17.8%、中国10.0%だった（図表4）。

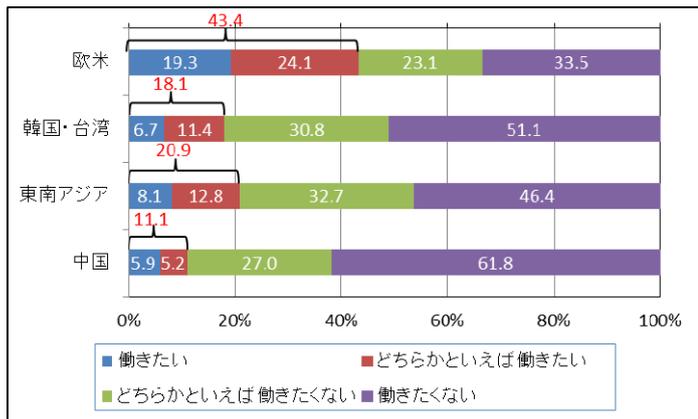
男女別でみると男女とも同割合が一番多かったのは欧米だったが、2番目に多かったのは男性では東南アジア20.9%、女性では韓国・台湾18.3%だった。（図表5）

図表4：海外勤務についての意識 【全体】

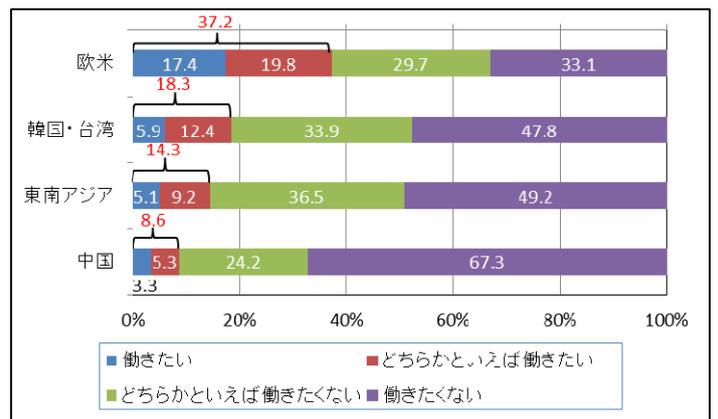


図表5：海外勤務についての意識（男女別集計）

【男性】



【女性】



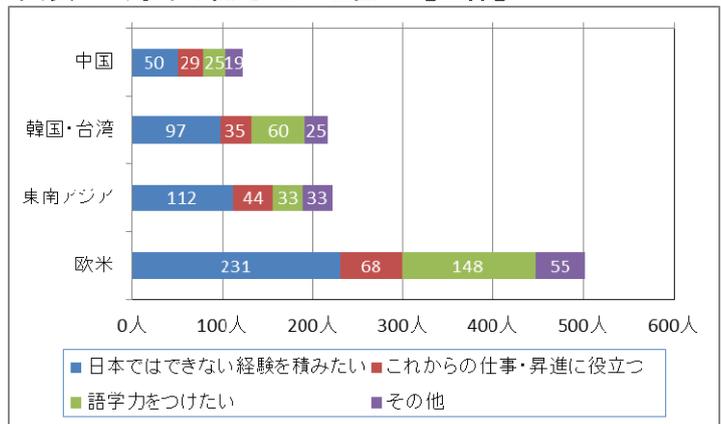
(5) 海外で働きたい理由

～男女ともすべての国・地域で1位「日本ではできない経験を積みたい」～

働きたい理由（いくつでも選択可）を国・地域別に尋ねたところ、「日本ではできない経験を積みたい」がいずれの国でも1位だった（図表6）。次いで、欧米や韓国・台湾では「語学力をつけたい」が2位だったが、東南アジアや中国では「これからの仕事・昇進に役立つ」が2位だった。

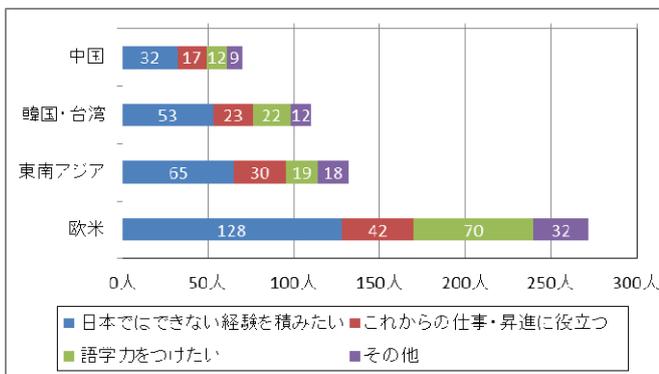
特に男性は欧米以外ではいずれの国・地域でも「これからの仕事・昇進に役立つ」が2位だった（図表7）。一方、女性は「これからの仕事・昇進に役立つ」よりも「語学力をつけたい」が欧米や韓国・台湾では顕著に多く、東南アジアや中国でもほぼ同じもしくは若干多かった。

図表6：海外で働きたい理由 【全体】

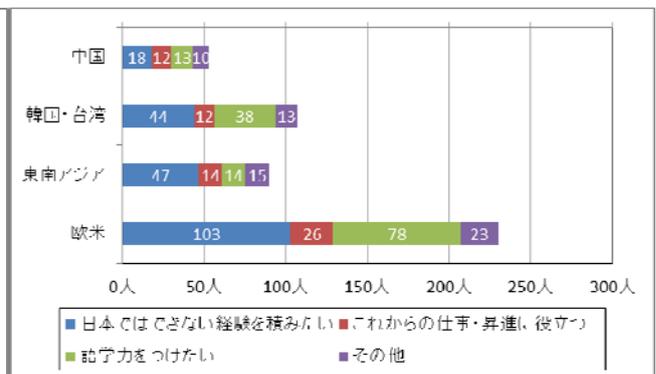


図表7：海外で働きたい理由（男女別集計）

【男性】



【女性】



(6) 海外で働きたくない理由

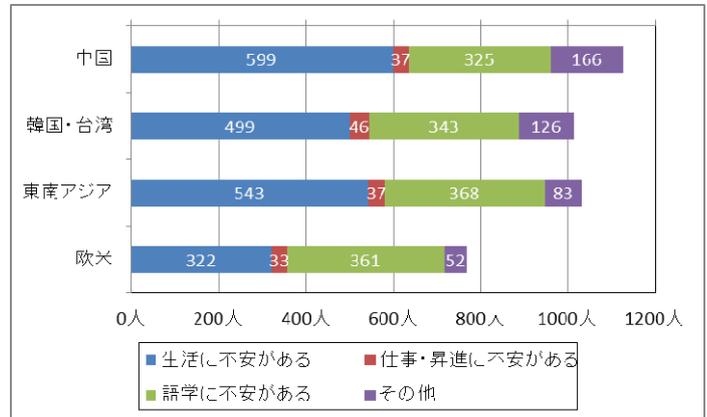
～男女ともすべての国・地域で「生活に不安」と「語学に不安」があるため～

次に、働きたくない理由（いくつでも選択可）を国・地域別に尋ねたところ、いずれの国でも「生活に不安がある」と「語学に不安がある」が多かった（図表8）。

欧米では「語学に不安がある」の方が多かったが、中国、韓国・台湾、東南アジアでは「生活に不安がある」の方が多かった。この結果は、中国、韓国・台湾、東南アジアでも語学に不安はあるものの、生活への不安の方が大きいためと思われる。男女の差はあまりなかった。（図表9）

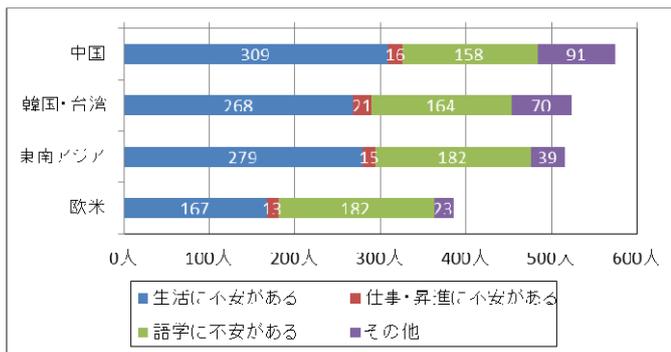
また、特にその他の記述で目立ったのは、中国や韓国・台湾での反日感情に対する不安だった。

図表8：海外で働きたくない理由 【全体】

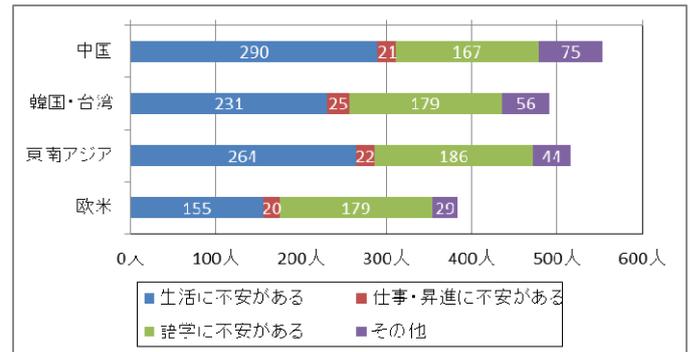


図表9：海外で働きたくない理由（男女別集計）

【男性】



【女性】

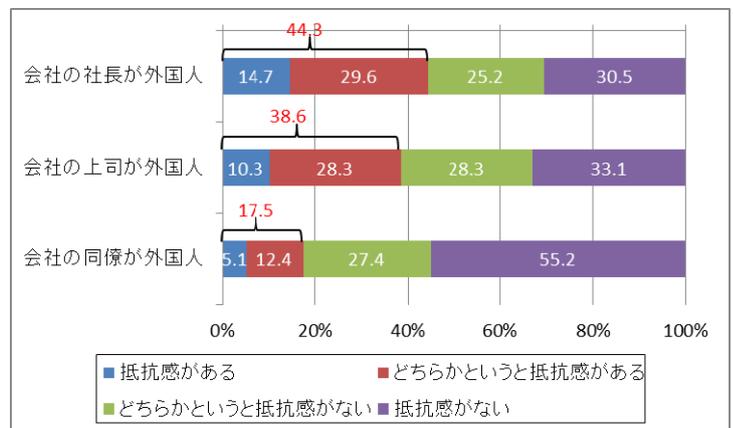


(7) 外国人との勤務

～外国人の社長・上司のもとで働くことには抵抗感があるものの、外国人と同じ立場で働くことには抵抗感は少ない～

外国人との勤務について、状況別に「会社で外国人と働くことになった場合、どのように感じますか（1つだけ選択）」と尋ねたところ、「会社の社長が外国人」の場合は「抵抗感がある」「どちらかという抵抗感がある」が合わせて44.3%だが、「会社の上司が外国人」の場合は同38.6%、「会社の同僚が外国人」の場合は同17.5%だった（図表10）。一緒に働くことになる外国人の立場が自分に近づくほどに抵抗感が薄れることがうかがえた。この結果は外国人が社長や上司の場合、仕事の仕方や人事評価などが日本の職場とは違うのではないかと不安がある一方、外国人が同僚として働く場合、仕事の仕方や人事評価は日本と変わらないと感ずるためではないかと思われる。さらに、図表にはないが性別による違いはなかった。

図表10：外国人との勤務



(8) まとめ

今や海外へ行くことは学生の間でも普及しており、新入社員の4割は海外渡航の経験があった。行き先は旅行でも留学でも欧米が多かったが、韓国・台湾や東南アジアは旅行先として、中国は留学先として選ばれていた。留学先として中国が選ばれているのは、海外勤務の理由として「これからの昇進・仕事に役立つ」が多かったことから、就職や将来の仕事も考えてのことと思われる。

海外勤務については、欧米での勤務には約4割が「働きたい」「どちらかと言えば働きたい」と答えた一方、中国では約1割にすぎず、国・地域によって大きな違いがあった。働きたい理由としては男性では「これからの仕事・昇進に役立つ」という理由が目立つ一方、女性では「語学力をつけたい」という理由が目立った。働きたくない理由としては男女ともすべての国・地域で生活の不安と語学の不安が多かったが、特にその他の記述で目立ったのは、中国や韓国・台湾での反日感情に対する不安だった。

総じて、海外経験はあるものの、海外での勤務、特に欧米以外では生活の不安や現地での反日感情への不安から消極的な姿勢が明らかとなった。ただし、日本で外国人が同僚として一緒に仕事をすることにはそれほど抵抗は感じられなかった。

以上